侍文庫四十三編
第廿二冊
万亭應賀作
上
へ13
3749
21

門へ13
號3749
卷21

倭文庫 巻十之編

三亭應賀作
歌川國貞
画

釋迦八相倭文庫四拾三編叙

浄土三部経内觀無量壽経ハ摩伽陀國王舍城の頻婆
娑羅王又瓶沙の太子阿闍世又衆樂提婆達多又調達の勸ふ
ゝ父王をとゝ重の牢獄小幽閉ゝて乾殺ー奉らんとする
説を原とせり是信小無上の惡逆なれどもそハ惡と以て惡を
懲て善を以て善を勸むゝ都て教書の深意なり然ハ幾
等を能勘弁て人道の專一とする父子の道小違ゝ勿らゞ

岩安政己未夏脫稿
仝 庚申陽春發市

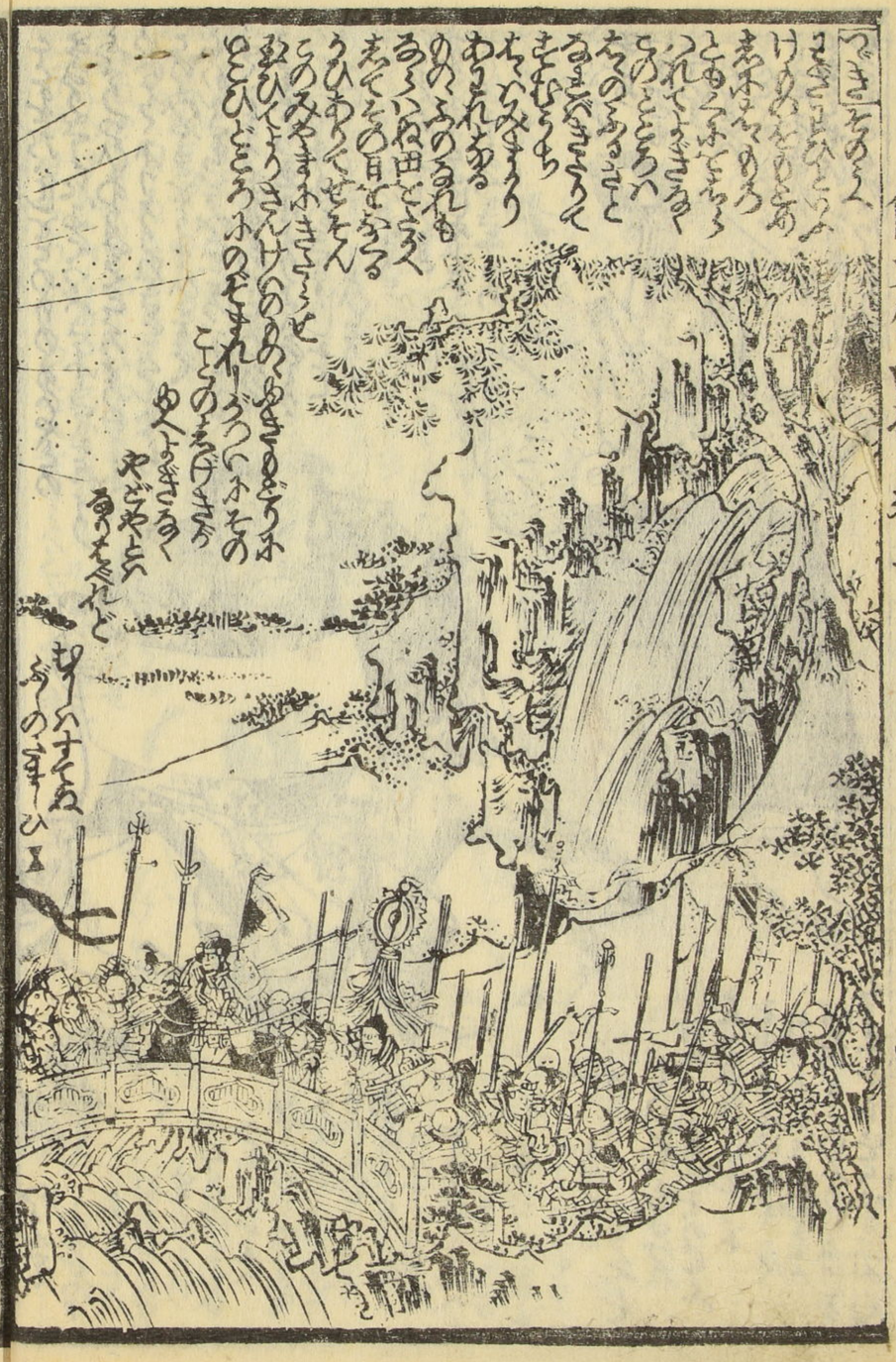
三亭應賀識

せセん
舎利弗
目連

うだいゆう
うだいの女房

いざこけ夫人
阿闍世
悪王頻婆
沙羅王をヒ重の
牢獄小閉居
せしむ木文豫め
觀無量壽経の

びんそ多ら王
要を摘む
獄舎の牢頭
貪曽官



つきそうて、
ときどきひとりよ
けのものをりあ
まりたのもの
ともふてもろ
うれてゆきるく
このところへ
たのふるさと
るとべきさうて
きむらもち
ちやうみきまう
わうれある
のくふのるれも
るくいぬ田ごとぐ
まそその月をふる
うひあくぐぜそん
このみやまわきさうと
ゐひとうさんけのものあきもどうふ
ととひどころふのそまれりづついふものこ
ことのえげさが
ゆくようきるく
やどやとい
ありたそれど
ゆりいすそな
ぶのまーひ

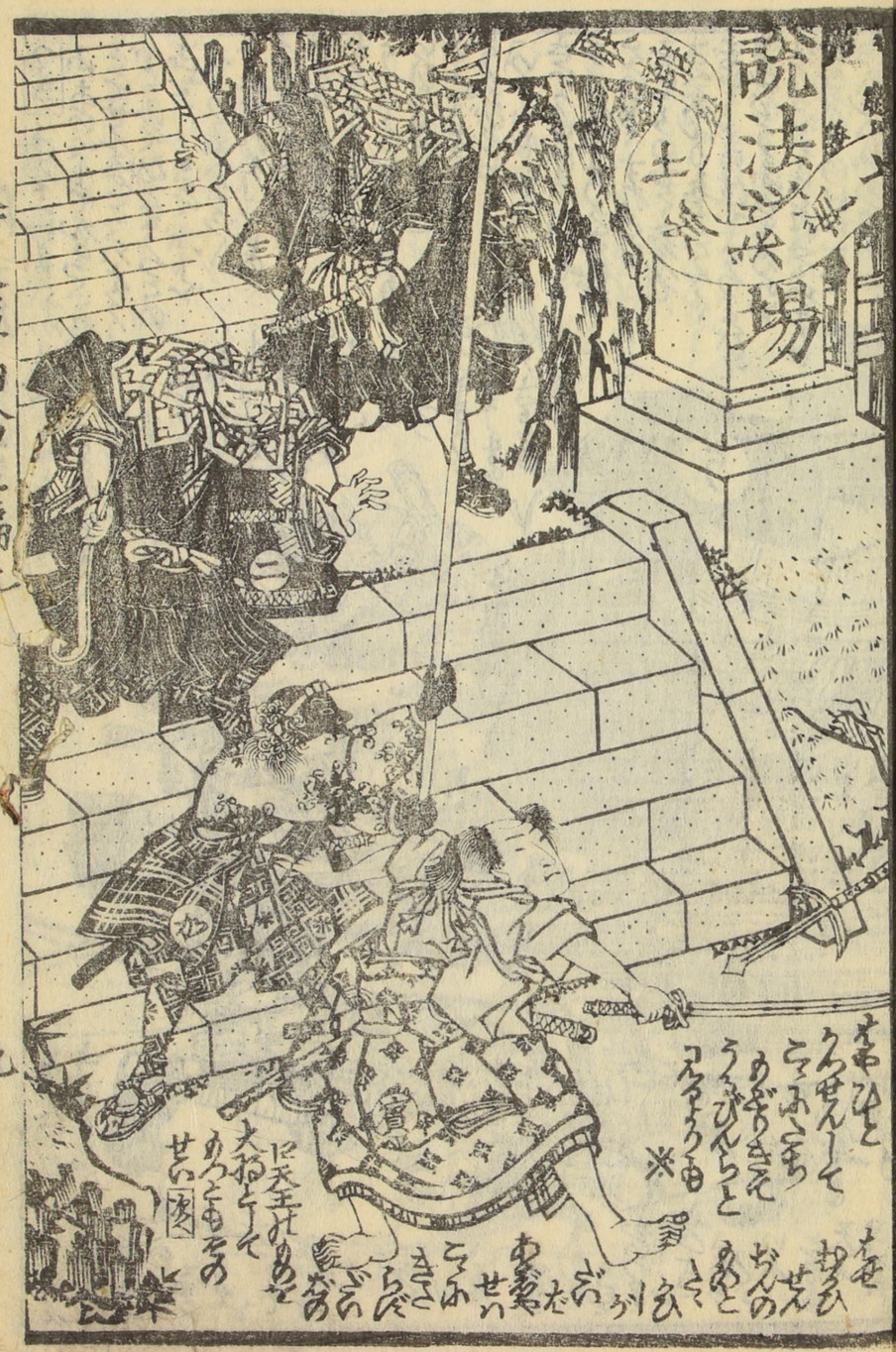
あるり
河那律
天眼通を
もつて世界の
ありさまを見る

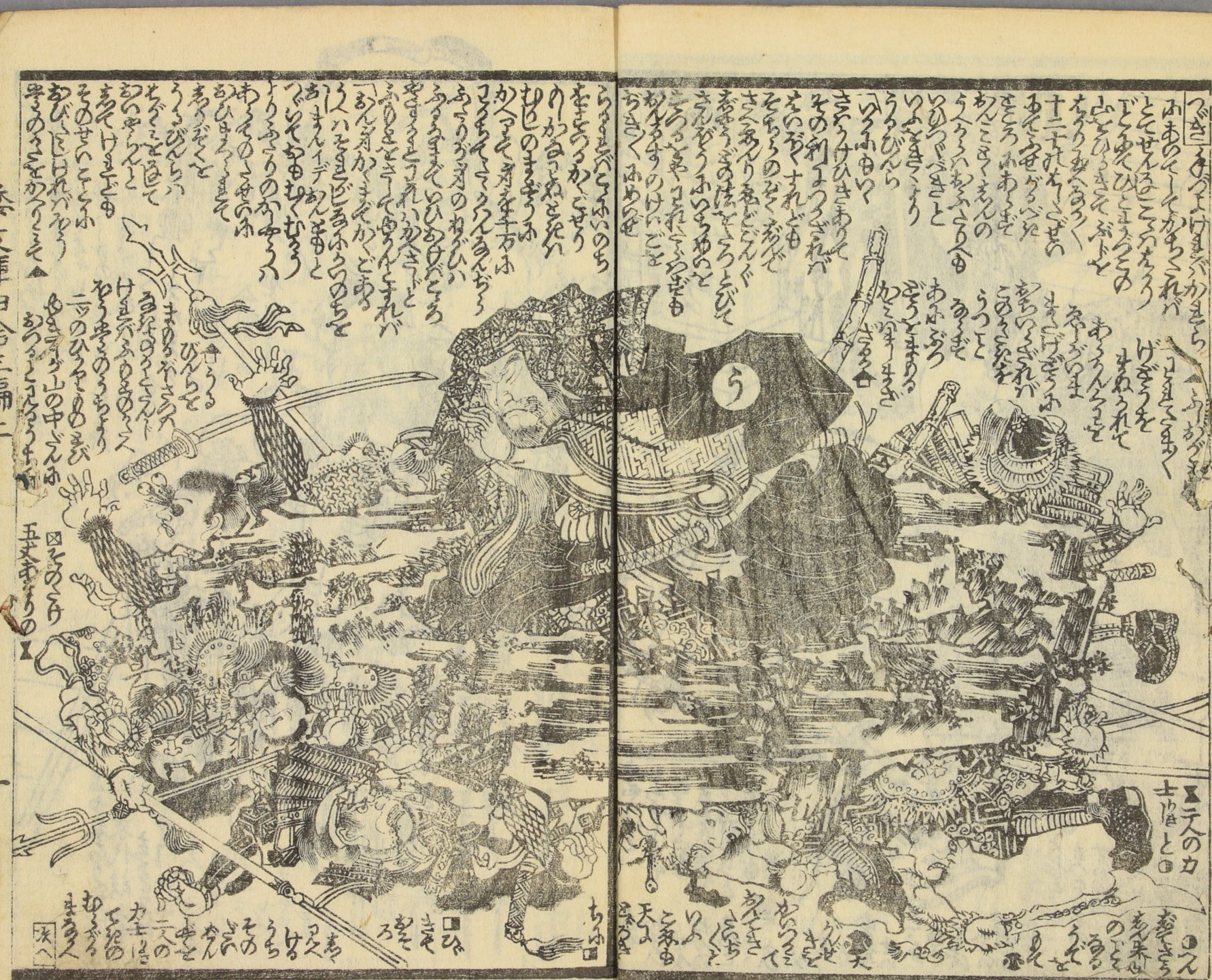
三さびぬを
もつてあのすうぜんの
百二百いあいてふ
ちんこころやもと
くあやとつぐさ
ゆくまるうひん
ゆくはさそころくいさぐ
ようさのすまう
ぎあくふのたといふのいあ
ぎあくふてくふおさじそくが
ゆまおのるめくふとう
えうぐんまといふおうり
さくびんがぞうだい
ぜんん

かーやう
ぞんといふ
のいなや
せそんの

そこいとなりて
らかのうちまわり
んぞのせそんふ
すあおりてこまあん
らくとれろうんやとすま
けまべびんぐんーそん
ゆくりくとうまりう

ぐさ」の人ば
ふとりをれあ
つけて「ゆうれと
言てとりふや
せをんとふいま
▲されいとたい
つれこの山れ
わるとなり
ちりとこをう
とさうろを
ふくをうと
言ふ
のあっ
☒の
千れひの
みふきま
まば
まづ
そるされ
あるいせさそこのこいつ
うをこ十六のうこを
めっこまこいんのぞゆく
吾
富
ふくれんを
やこをを
のそうこれを
あぶりん
※
べれそシテまこうぶぢあうぎよと
このうをふるつころうぢやそが
さろるふるまぶさろるりまんぜとつふとつんや
ろまおやむくいやのといひそぶぜんせふ
るぶりんおちてこのよぐりがろうわちろう
いつまんさえいやそれよろう
ろんでゆかでもこのいものを
ふをもてぐらくとさろぶは
なんちくハそれをこんぬこまの
くんぬとつまふをそうふもくふれぬ
ぐそうぶめうくハらかくとかハぐき
ぐうとあもハまろいろふもろんぢが
つふぐくこれこの山くのかりしハ
ぐんぐらふいちにてらんどおて
をうこふをろてぬをさこのまれ
こうそまぶぐさしこまんぢくハこぶ
けらいをぢこうろくこそぐもさちら
こうふちろれをぶとこんむくイハのち
あくぶこぶいそをぐハあ彩ゆせの
かくこうぶこのふぐこうをぐもつろむが
よいころんふこえこるこをぐとさいて
うろびんらこぶぐこんまうひんがろうそあう者ふ
坐ぐさこちろてこれこうこをやこぐくふのまぶハ
いくこをまうやみをふもいうるいうあまうとうハぶ
みさけるんやくひこをりをきふるっあう ☒
富
ハ
ハのまなこを
ちこまハ
ちまぶちよぶのも
こまをくかくいこさちハ
ものくくらのくの天こん
ありあいまこれわくあ
さてとんあこであるこうを
定ふいしめ山下ばのるを
こんせこめけまぶ
つぎへ


説法場


テンのカ士りきと
うるびんらを
まのろがさるハ
五文字ぶりの

安政七年庚申春新板目録

倭文庫 四十三編 四十五編 四十四編 四十六編 万亭應賀作 一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋 八編揃 為永春水作 同

昔語小栗實説 二編 三編 松亭金水作 同

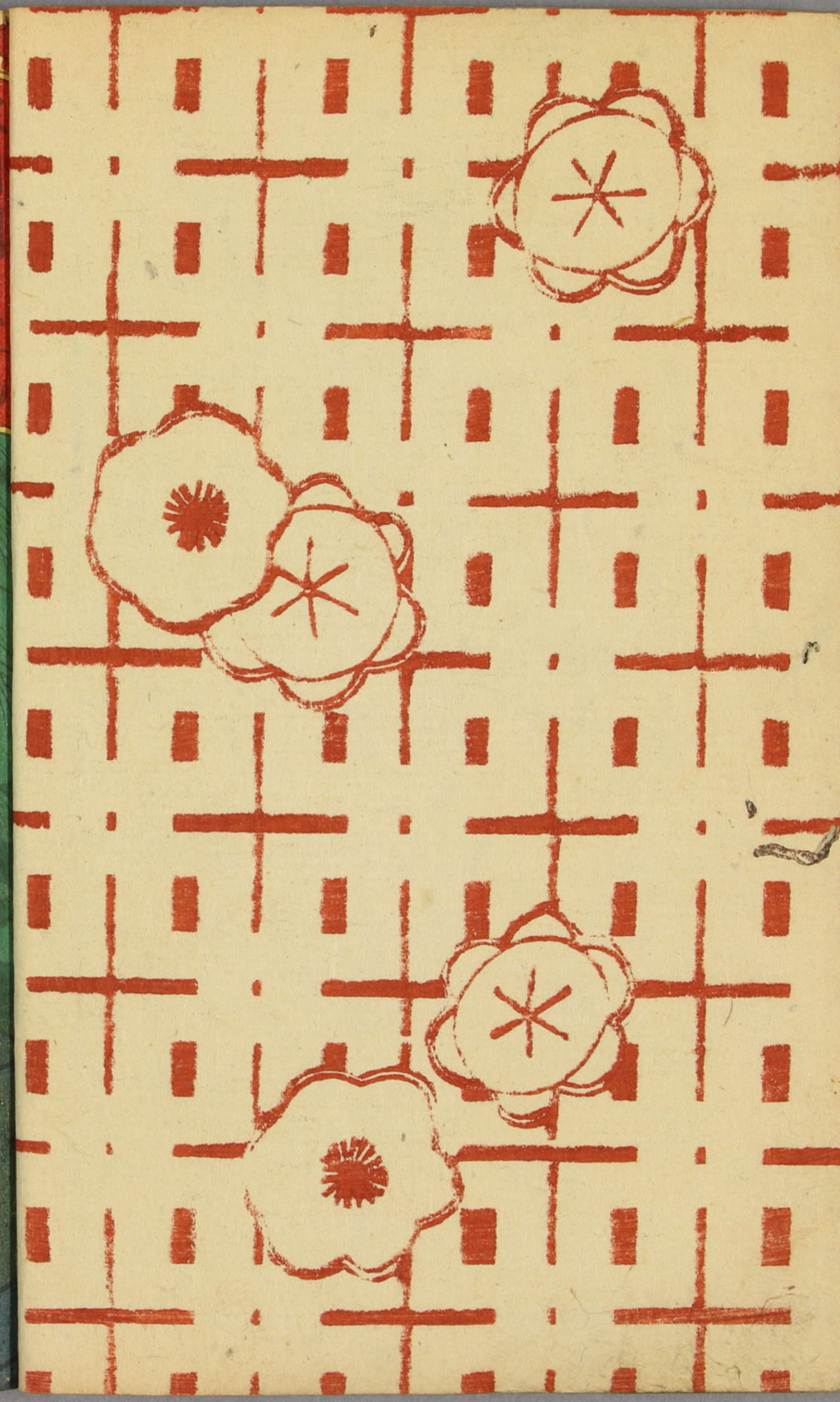
花山吹百人女郎 初編 二編 柳亭種彦作 同

浅草みやげ 五編揃十返舎一九作 同

常磐津懐中本 初編 二編 三編 四編 小本 表紙付の極上彩色

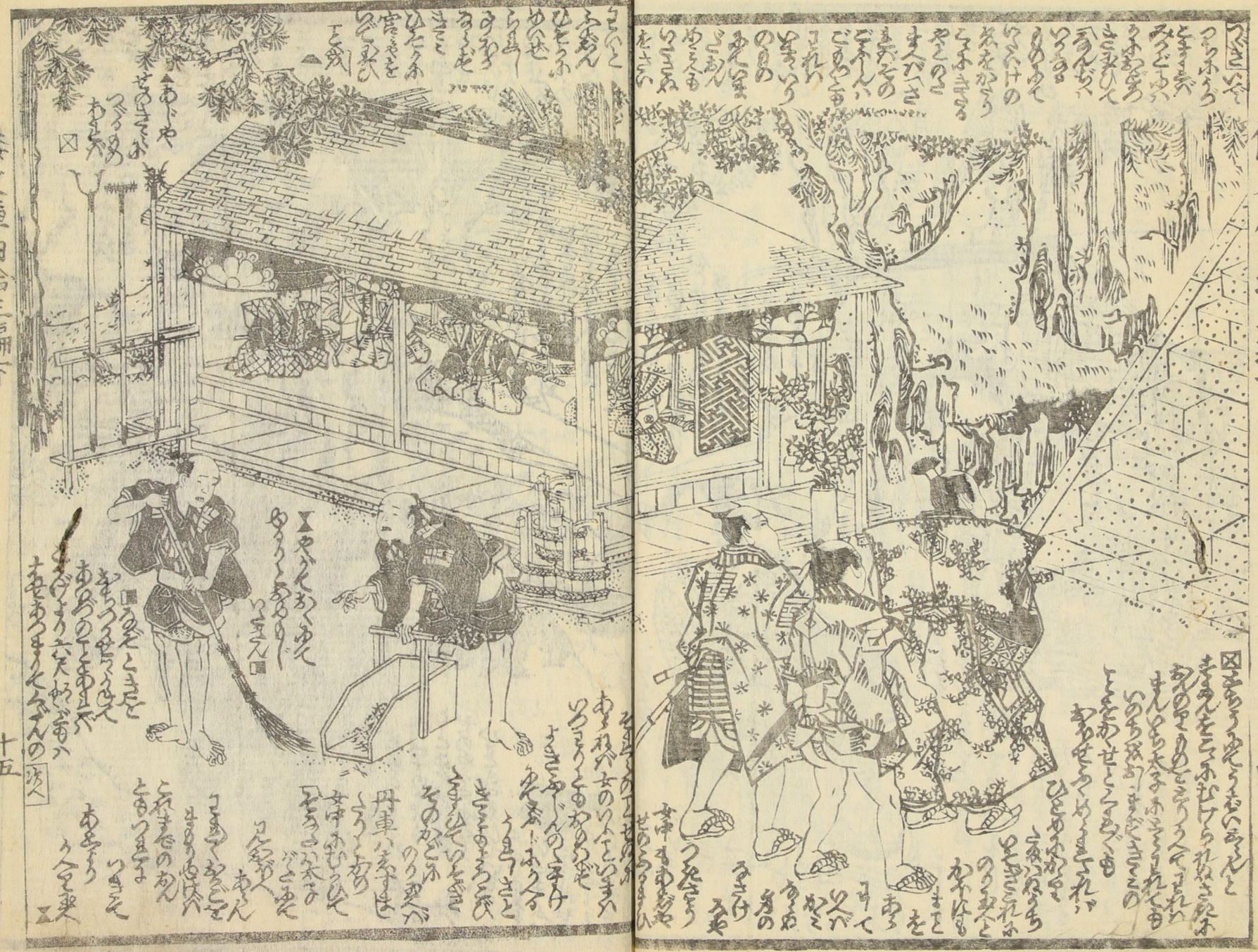
畳 繪艸紙本類 人形町 土州屋重藏版

歌川國貞畫
作者 曲亭馬琴
下



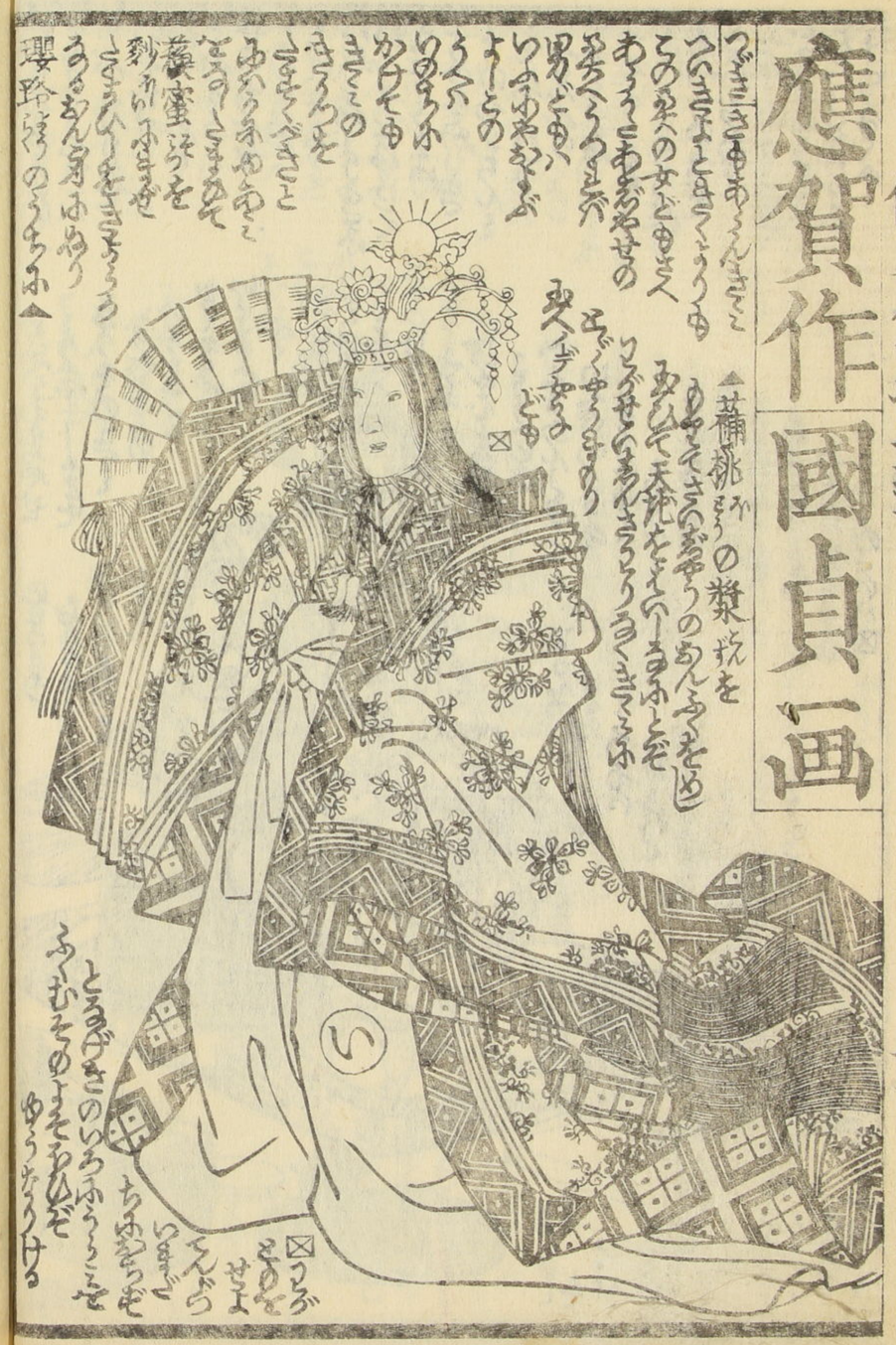
歌川国貞画
無賀

あ
丹



つぎさかうくと
くちうつしひて
そうさく

應賀作 國貞画



倭文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画

男女振合　役替双六　極ありて上がり　同　一陽齋豊國画

武家奉公出世双六　同　同　同　画

奥奉公出世双六　同　同　同　画

子宝延命袋　紅摺全一冊　同　歌川芳玉画

重榮御江戸繪圖　奉書四枚半續

大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續

俊文庫四拾四編
錦重芳版

屋陰雪ぶんき

四十四編

上下巻

万亭應賀著

歌川國貞画

釋迦八相倭文庫四拾四編序

夫耶輸達羅女ハ大力なること出曜經第七ハ瞿夷を以て調達為夫人の文あり瞿夷ハ是耶輸陀羅女なり又六度集經第七ハ悉夷と号まゐ薩婆多論第二ハ佛在世の時ハ三人の多力なりて一者阿難二者狗夷三者有二釋種子云云まゐ大毘婆沙論第三十に三人の釋種なり見ハ有鉢羅塞建提力二ハ阿難二ハ設摩釋子三ハ瞿波釋女とあり瞿波ハ則耶輸陀羅女也

浅草文庫

昔安政己未季炑脱稿
今　庚申　陽春發市

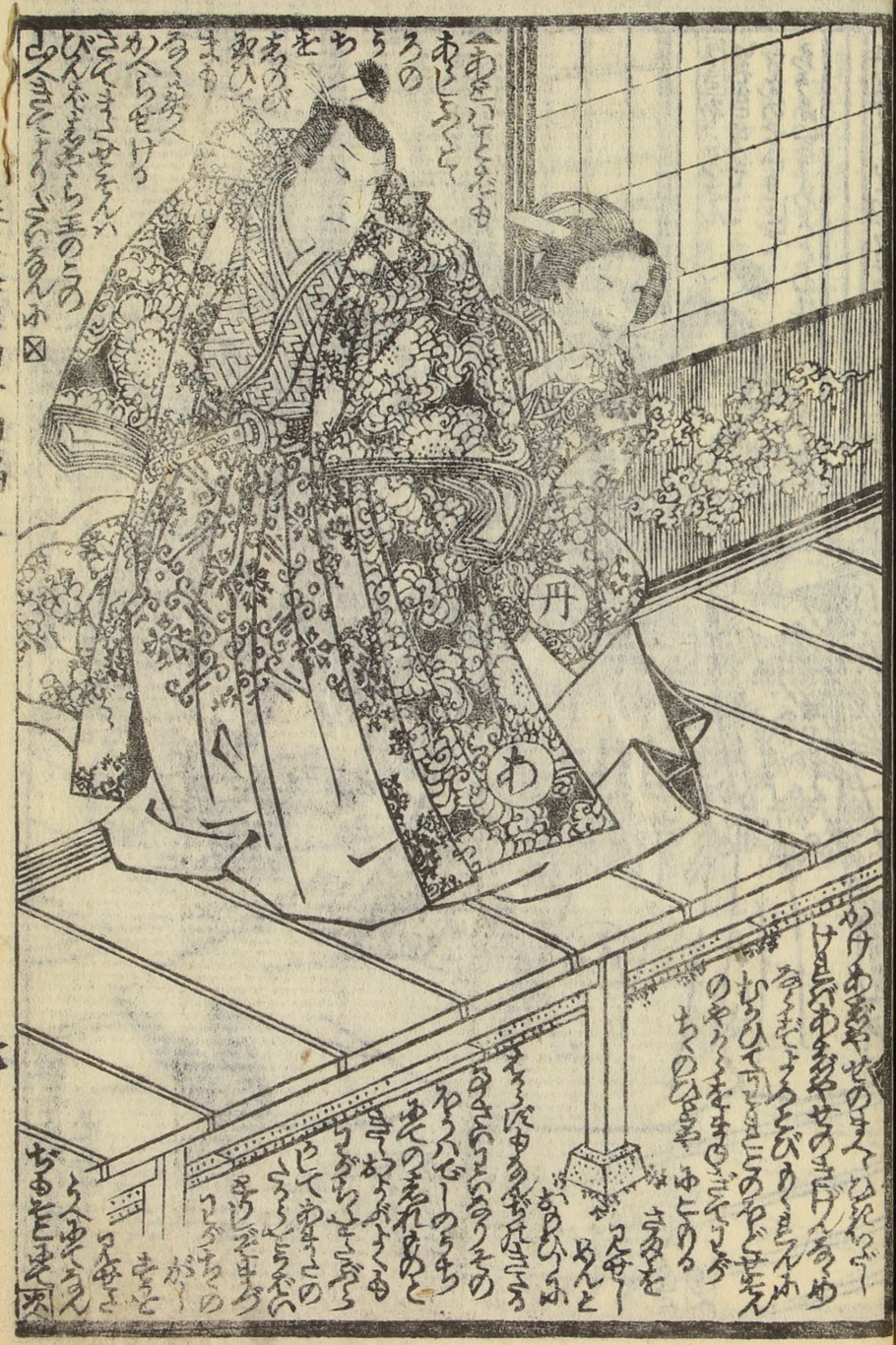
万亭應賀誌

韋提希夫人
逆子阿闍世の業に
深宮に被閉居て
遥に耆闍崛山に
向つて持念在せば
世尊大目犍連

及び阿難と
世尊に
今来て教示淨土の法
文を授け
給へ

作文耳口口紙上
耶破僧事第十の中畧
提婆達多欲下害耶輸陀羅女
目連
提婆達多法衣を着て名を大熱と号
我及稱王時
爲國夫人
夕陽山の庵室に
耶輸陀羅女
耶輸陀羅女
提婆達多

目

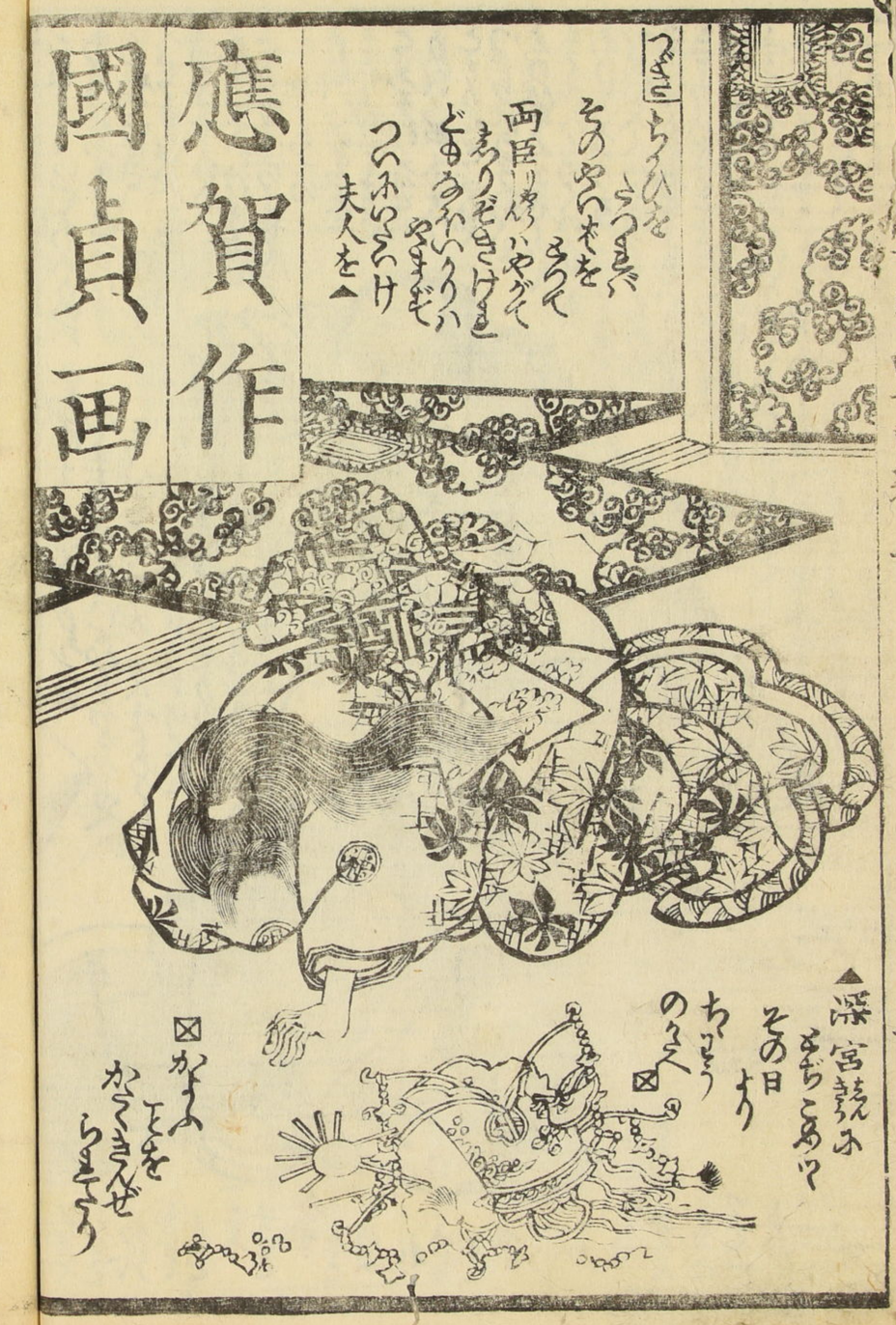

丹
わ

丹平

あ

い
わ
月

者



倭文庫 四十三編 四十四編 万亭應賀作 四十五編 四十六編 一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋 八編揃 為永春水作 同

昔語小栗實説 二編 松亭金水作 三編同

花山吹百人女郎 初編 柳亭種彦作 二編同

浅草みやげ 五編揃十返舎一九作 同

常磐津懐中本 初編二編 小本 三編四編 極上彩色

金重繪艸紙本類 人形町 上州屋重藏版

万亭應賀作

歌川國貞画

仲夏四季

下

下のまき

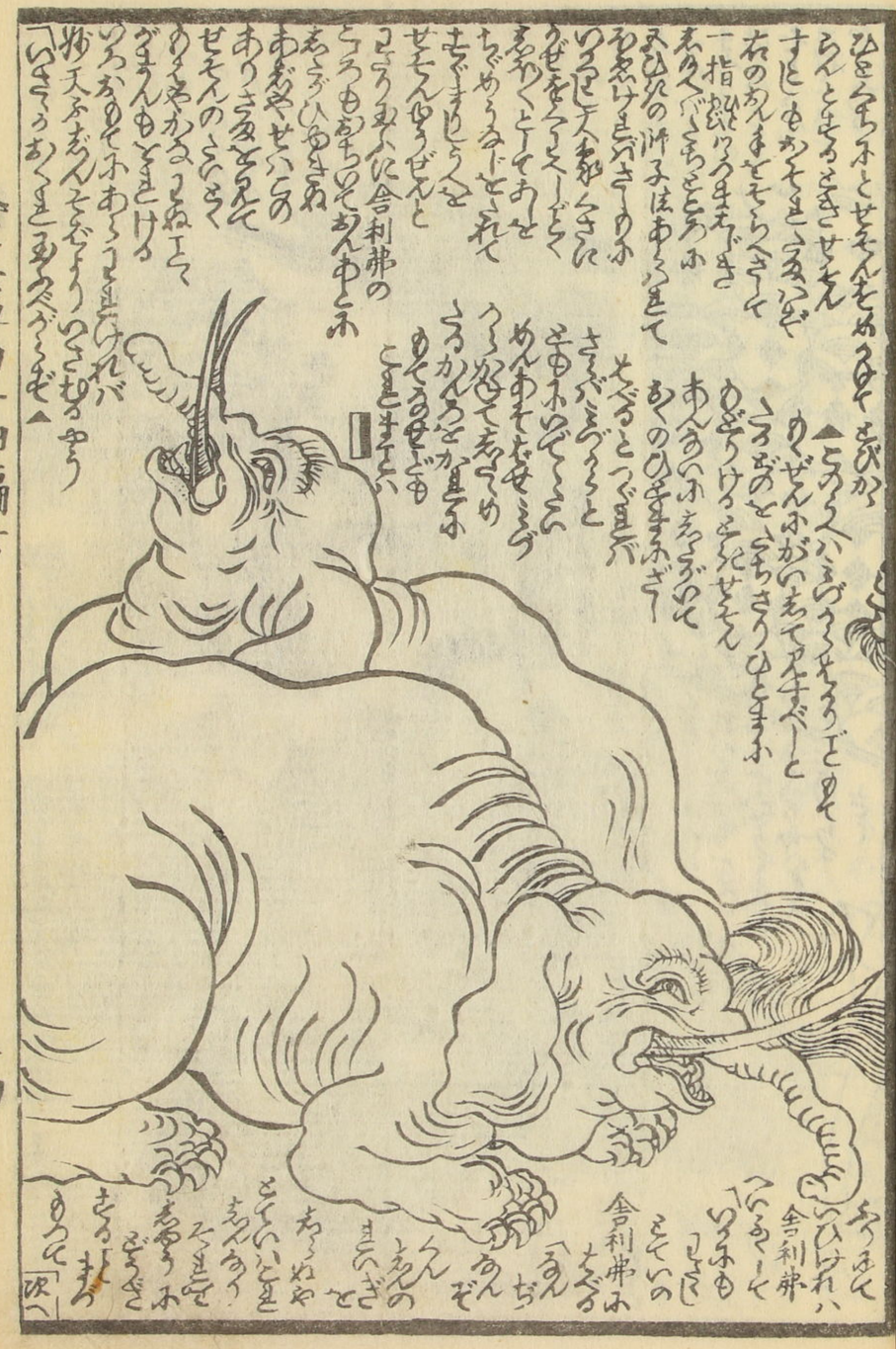
四十四編

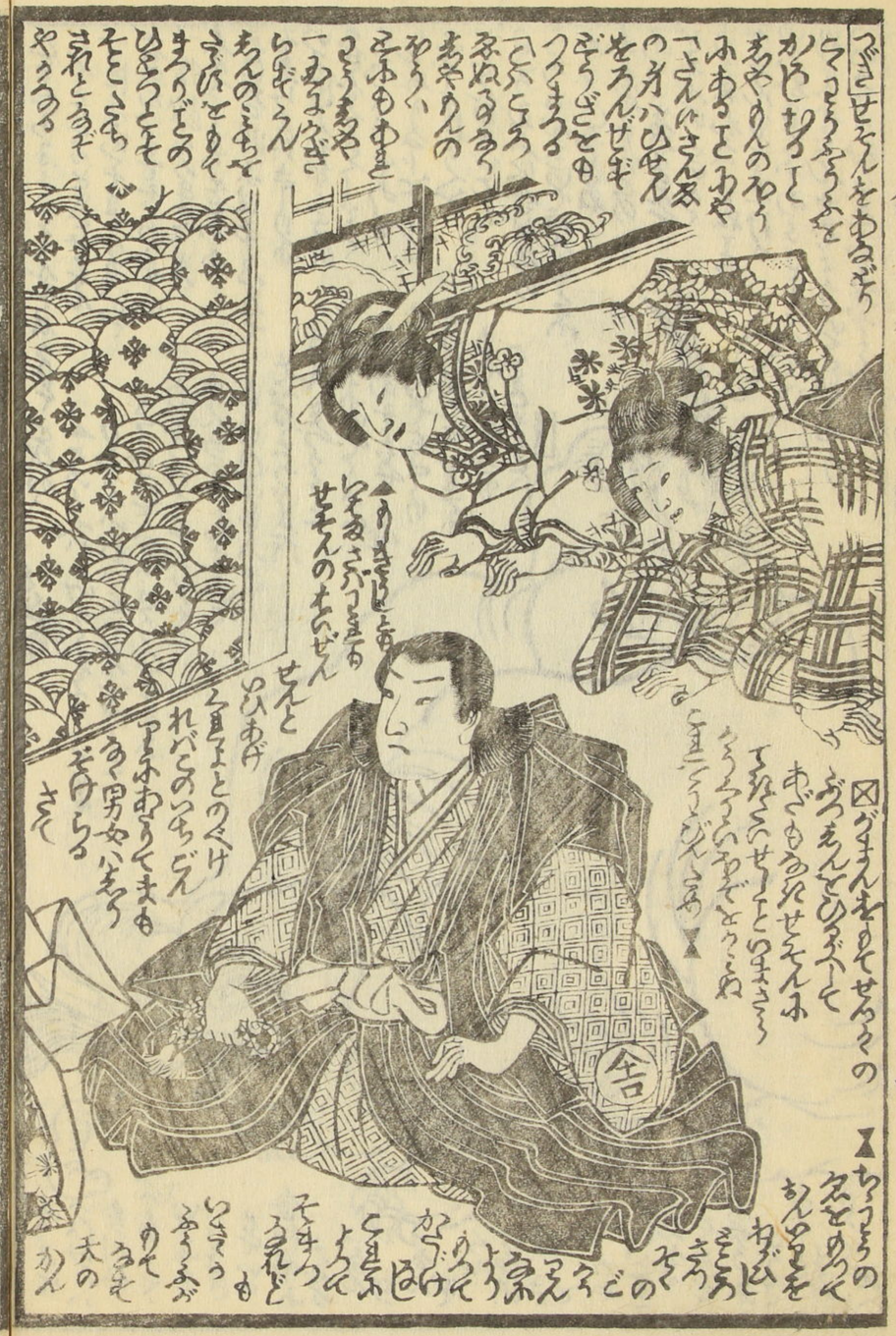
歌麿

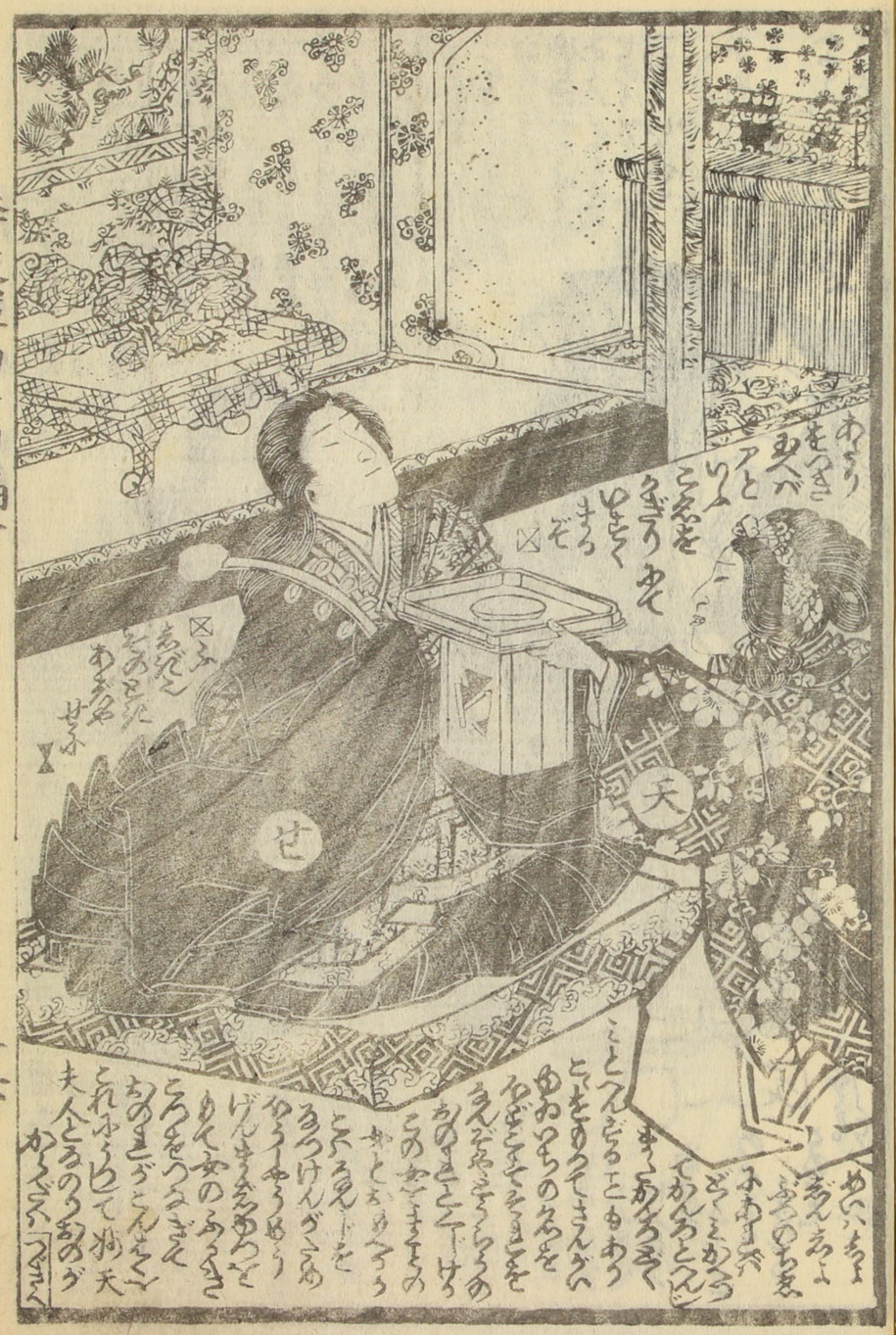
北斎

為重堂板

せ
舎
舎利弗




舍



せ
邪魂去敗空

わ

び

せ
月

舍
せ

い

万亭應賀作

歌川國貞画

安政七年庚申春新板目録

倭文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画

男女振合　役暦双六　同　一陽齋豊國画

武家奉公出世双六　同　同

奥奉公出世双六　同　同

子宝延命袋　紅摺全一冊　同　歌川芳玉画

重榮御江戸繪圖　奉書四枚半續

大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續

太主布刀祝詞